

# 産官学連携活動 (2017年度)

## 1. 地域に根ざした生涯学習等に関する産官学連携事業

### 1) 官学連携

#### ■ 公開講座

上尾市教育委員会・さいたま市教育委員会の共催「公開講座」は、2017年度は、5/6－7/8 全10回、5講座開講。地域住民、のべ244名受講。

#### ■ リカレント教育講座

埼玉県福祉部と本学の協定による高齢者を対象とする授業科目の開放は、2017年度も実施。受講者は両学期合わせて94名。

#### ■ 学習支援活動

さいたま市教育委員会と本学の協定により、2010年度より「教員を目指す学生による学生活動支援」を開始。本学学生をさいたま市立小学校に派遣。2017年度の派遣学生はアシスタントティーチャー2名。

#### ■ 子ども大学 あげお・いな・おけがわ

本学、日本薬科大学、埼玉県教育局、上尾市教育委員会、桶川市教育委員会、伊奈町教育委員会で組織された子ども大学 あげお・いな・おけがわ実行委員会が主催する子ども大学は小学校4～6年生までの違う学校・学年の子どもたちが大学のキャンパスで学ぶ子どものための大学で大学教員など専門家がわかりやすく教える。

2017年度は「本の世界を楽しもう」と題した授業を5・6年生を対象に6月10日(土)、6月24日(土)の2回を本学で開催し、計91名が参加した。

## 2. 地方自治体との連携事業

2013年4月、地域連携・教育センターが開設し、さいたま市、上尾市、春日部市、岩手県釜石市を中心に地域連携活動を積極的に展開している。

### ■ 「特別県営上尾シラコバト住宅の共助による活性化推進に係る連携協定」について

2014年7月18日、埼玉県と、「特別県営上尾シラコバト住宅の共助による活性化推進に係る連携協定」を聖学院大学及び、ものづくり大学と締結した。これは、特別県営上尾シラコバト住宅の共助による活性化等に関する取組・研究について、相互に連携を図り推進するもの。具体的な事業概要は以下。

・事業概要 高齢化が進む古い団地の活力を向上させるために、団地の一部を学生と子育て世帯向けの部屋に改修し、若い世代が入居するというモデル事業を実施する。入居する学生や子育て世帯には自治会活動に参加してもらうことで、現在の入居者と共に支え合う「共助」の関係を築いていく。

・取り組み状況 本学学生が、2015年1月よりシラコバト団地に入居開始。2014年度末は2名だったが、2015年度は8名、2016年度は13名、2017年度は10名の学生が自治会活動への参加を開始している。

### ■ 上尾市商工課との協働 —上尾市のおすすめポイントを紹介する動画を作成

地域振興と多文化共生をテーマに、本学の留学生と日本人学生が協力して、市内巡回バス「ぐるっとくん」を利用して巡ることのできる施設を訪問、取材と撮影をし、上尾市の魅力を紹介する動画を作成した。作成した動画は、上尾市商工課の協力により、あげポタTV、上尾駅コンコースの大型スクリーンなどを使って発信した。

### ■ 埼玉・上尾の魅力発信へ — PR ビデオ制作

NPO法人「AGETTO」の協力で、本学の学生が、上尾市で収穫できる農産物を紹介するPRビデオを制作。動画はJR上尾駅コンコースの大型スクリーンで放映された。

### 3. 地域産業界との連携事業

---

#### ■ これまでの活動の経緯の要約

さいたま北商工協同組合との連携が行われ、2012年度のさいたま北商工協同組合の事業計画書に聖学院大学のインターンシップ事業の実施が組み込まれた。2013年度は2事業所4名の実績であったが、2014年度は5事業所8名、2015年度は5事業所12名、2016年度は5事業所8名、2017年度は2事業所2名の実績だった。

#### ■ 成果事例における雇用・経済効果、社会的意義等のインパクト

同商工協同組合の事業計画になることで、本学の就業力の学修の場の拡大、また地元企業にとっても本学の学生の採用とのマッチングが期待できる。

#### ■ 産学連携のきっかけ

同商工協同組合は、本学地元経済団体である。同団体主催の地域活動に、学生や教職員が積極的に参加することなどにより、関係の強化を図ってきた。

#### ■ 「宮原地域学」の開講

さいたま北商工協同組合の協力を得て、大学に近接する宮原地域の概要を学ぶとともに宮原地域をより良くするための方策を考える授業を開講した。宮原駅のイルミネーションのテーマとして、学生が提案した「虹」が採用された。

以 上